

第 21 回すばる小委員会議事録

日時：2014 年 6 月 20 日（金）午前 11 時 10 分より午後 2 時 20 分（JST）

場所：国立天文台三鷹すばる棟 2 階会議室（ハワイ観測所、IPMU、大阪大学、
京都大学と TV 会議接続）

出席者：青木和光、秋山正幸、有本信雄、臼田知史、大橋永芳(午前のみ)、
中村文隆、吉田道利（以上三鷹）

岩田生（ハワイ観測所から TV 会議接続）

岩室史英（京都大学から TV 会議接続）

高田昌広（IPMU から TV 会議接続）

深川美里（大阪大学から TV 会議接続）

欠席者：片坐宏一、嶋作一大、高遠徳尚、田村元秀、本原顕太郎、山下卓也

書記：吉田千枝

1 PI タイプ装置の受け入れ期間について

岩田副所長：

これまで観測所では「PI タイプ装置の受け入れプロセス」を定めて持込装置の受け入れを行ってきたが、受け入れ期間についてはとくに規定していなかった。今後も新たな PI 装置の受け入れが続くことが予想されるため、短期間で特徴ある装置を立ち上げサイエンスを回収するというサイクルを回し、装置開発を活性化したい。そのため、受け入れ期間をサイエンス観測開始から 3 年とする規定を追加する観測所案だ。PI が受け入れ期間の延長を希望する場合は、当該セメスタの公募開始 2 か月前までに所内審査を行い、延長の可否を判断する。

Q：PI 装置は共同利用に出るのか？

C：いろいろな場合がある。共同利用に出る場合もある。

岩田副所長：共同利用に出すことを観測所としては推奨している。

Q：装置製作の資金的な裏付けが取れる前から、観測所に装置計画を提案したほうがいいのか？

岩田副所長：その点は重要だ。かつては観測所に相談する前に装置製作予算を申請してしまう場合があった。観測所がその装置受け入れられるとは限らないので、ぜひ科研費申請前に相談してほしい。

Q：それはどの程度の強制力があるのか？単なるお願いなのか、あるいはそれを満たさない

と受け入れないのか？

副所長：観測所が知らないうちに予算を申請されてしまう場合もあると思うが、
観測所として受け入れられない場合はお断りするしかない。

C：HSC のフィルターでも同様の話があった。同じ仕様のフィルターが別のところで
作られるともったいない。

SAC 委員長：サイエンス観測開始から 3 年というのはリーズナブルだと思うが、共同利用
で使われるようになった装置は延長がありうるのか？

岩田副所長：装置 PI から「ユーザーがたくさんいる」と説明していただければよい。

SAC 委員長：PI 装置から観測所装置に移行することはありうるのか？

岩田副所長：ユーザーも多く、性能も優れかつ安定している場合、ありうると思う。
しかし、観測所装置は観測所が責任を持って維持できる必要があるため、
観測所が運用を引き継げるようなドキュメントなどが整備されていることが
求められる。

大橋副所長：PI 装置と観測所装置では受け入れプロセスそのものが違う。

SAC 委員長：受け入れ期間の延長審査について、SAC は関わるのか？

岩田副所長：装置受け入れには所内のスケジュール上の制約が大きいので、観測所が責任
を持って判断するが、サイエンス部分について必要に応じて SAC や識者の
意見を聞くことはありうる。最終的には所長の判断になる。SAC にはその都
度報告する。

SAC 委員長：今までどういう PI タイプの装置がどういう流れで使われているか、という話
はあまり聞いていない。

岩田副所長：新しい PI 装置としては以下が予定されている。

- ・ IRD 審査委員会で差し戻し中なので、来年初めに予定していた立ち上げが遅れる。
- ・ CHARIS SCExAO と組み合わせる。S16A に試験観測開始予定。
- ・ GIGMICS (PI 名古屋大学、平原氏) 近くハワイに輸送する予定で、その前に審査を行
う。
- ・ RAVEN 8 月に観測がある(エンジニアリング及び観測所時間観測)
- ・ TAO の SWIMS・MIMIZUKU MIMIZUKU は数年前に提案してもらったが、状況が
変わったので再度提案していただく。

Q：現在実際に動いている PI 装置は？

岩田副所長：Kyoto3DII+AO188 は S15B で 3 年になる。HiCIAO+SCExAO は S16B で
3 年になる。HiCIAO は SEEDS が S14B で終わるがインテンシブ観測が提案
される見込み。S15B ぐらいが一つの区切りで CHARIS に移行することになる
と思う。

SAC 委員長：受け入れ期間を明示した線表にまとめてほしい。RAVEN のステータスは？

岩田副所長：S14B は共同利用はない。

SAC 委員長：RAVEN のサイエンス観測はいつから始まったことになるのか？

岩田副所長：RAVEN はビクトリア大学との共同開発だが、装置チームはすばるで長く観測するつもりはないらしい。

C：(持込期間が) 3 年より短い分についてはよいだろう。

Q：Kyoto3DII について、カセグレンでの使用についても考えるのか？

岩田副所長：装置グループと協議しており、S15A での使用がなければそのまま終了することになる。

C：今後他の装置と組み合わせて撮像は HiCIAO でやりたいというケースがあるかもしれない。

SAC 委員長：特に反対意見もないので、PI 装置の持込期間は 3 年という観測所からの提案を、SAC として承認する。

岩田副所長：各装置 PI に伝達する。

2 所長報告

この一ヶ月特に大きな動きはなかった。韓国 KASI で望遠鏡時間を買うための予算がつき、2015 年から KASI と Gemini とのコラボレーションを始めるとの連絡が KASI の Narae Hwang さんからあった。内容は Gemini Board Resolution 2014.A.4 に載っている。

"2014.A.4. The Board welcomes the proposal to add the Korea Astronomy and Space Science Institute (KASI) as a collaborator for 2015. The Executive Agency and the Observatory are directed to conduct negotiation, and to work toward establishing a long-term partnership with KASI, extending beyond 2015. The Board looks forward to this relationship, which will be beneficial to both the Gemini and KASI communities."

どれくらいの夜数を購入するかは明らかではないが、年間 20 夜程度と推測している。なお、KASI はこれまで行ってきたすばるとの連携は更に発展させたいという希望を持っており、ハワイ観測所としても WS や すばるの学校は継続して行く方針でいる。

3 中国の WS について (所長)

WS は 9 月に開催することで中国側と合意した。先方の実情としては、ずっと中国で研究している人と帰国組の二つのグループに分かれているようだ。最初は小規模のグループとの連携から始めるのがよいようだ。すばるを使うのはどの層なのか見極める必要がある。日本側のキーパーソンは中国と連携することに理解がある方をお願いしたい。第 1 回 WS は SAC からお願いして行っていただくのがよいと思う。

Q：中国側の人選は進んでいるのか？

A：これからだ。ハワイに学生を送りたいそうさ。

大橋副所長：RCUH を使えば可能だ。

所長：人件費は先方が負担する。単に人を送りこむのではなく、人材を育てたいという我々と同じ考え方だ。

C：観測所スタッフがスーパーバイザーにならなければいけないので、その負担はある。

C：学生の指導を丸投げするのではだめなので、中国の研究者に数か月滞在してもらい、共同研究するのがよいと思う。

C：送り込む先はハワイでよいのか？

所長：ハワイが基本だろう。in-kind の貢献もしたいそうさ。別件だが、すばるで LAMOST のキャリブレーションをやりたい、LAMOST の結果をすばるで確認したという希望があると聞いている。

青木委員：キャリブレーションだけを目的にすばるのプロポーザルを書くのは難しい。サイエンスを上手にまとめれば可能だが。

SAC 委員長：まず WS に行っていたかく方の人選を進めてはどうか。

所長：中国側は系外惑星、銀河考古学、high z 銀河形成の 3 分野でやりたいそうさ。

最終的な狙いは彼らが実力でプロポーザルを通せるようになることだ。

プロポーザルを出せば通る人でなく、これからすばるを使おうと言う人たちを WS の対象にしたい。

4 PFS 進捗について

岩田副所長：

前回の SAC で 6 月終わりくらいには PFS の予算縮小プランが固まるという話をしたが、Caltech, JPL での検討が遅れている。7 月の第二週に ASIAA に行って、合意をする場を設定するそうさ。その後実際のプランができあがり、NAOJ がコミットして進めることになると思われる。報告できるのは 7 月半ば以降にずれ込みそうさ。

Q：JPL から ASIAA に主焦点の製作の一部が移るのか？

A：ポジショナーはそのまま JPL が製作し、PFI（ケーブル巻き取り、オートガイダーなどを含む入れ物）は台湾になる。

Q：当初のスペックを下げないで実現できそうなのか？

A：現在の検討は仕様を落とさない方向で検討されている。ただし、contingency が含まれていないプランだ。

SAC 委員長：PFS については次期 SAC への申し送り事項になってしまった。

SAC は PFS を進めるという意見だったが、進捗を見守る立場だ。大分不足分

は減りそうだが、依然として予算が不足している。なおもプランを縮小するよう勧告を出すのか、様子を見るのか、次期 SAC の判断になる。

5. 次期 SAC 委員候補の選出

光天連からいただいた推薦名簿をもとに、分野や所属機関のバランスを考慮しつつ次期委員候補者の検討を行い、5人の候補者を決定した。委員長から候補者の内諾を得た上で、光赤外専門委員会に上申する。

所長：次期の SAC では国際協力や TMT への移行などについても議論して頂きたい。

6 次回の SAC 日程について

次期委員が光赤外専門委員会の承認を得るまでは「すばる懇談会」として開催する。次回は 8/19 (火) の開催とする。

7 今期 SAC のまとめについて

今期 SAC の活動内容と次期 SAC への引継事項について、後程委員長からメールでたたき台案を回覧し、まとめる。

所長：終了する戦略枠の総括をお願いしたい。

SEEDS と FastSound の最終報告会を来年実施することとした。

8 第 6 回すばる国際研究集会について(報告)

高田委員(SOC):

テーマを絞らないと議論が拡散してしまうので、銀河（遠方と近傍）・銀河考古学・宇宙論の 3 つに絞り、全体で 5 日間にした。場所は historical な場所ということで広島とし、開催時期は 2016 年 11 月くらいを考えている。次のステップは SOC と LOC の決定だ。

SAC 委員長：

今期 SAC は今回が最終回です。皆さんどうも御苦勞様でした。

資料

1 中国との WS 派遣研究者案 (所長メール)

- 2 PI タイプ装置の受け入れ期間について（岩田副所長）
- 3 次期 SAC 委員候補者推薦名簿(光天連委員長メール)
- 4 第 20 回すばる小委員会議事録案